7月號

婦人運動

第5巻第7號



職業婦人社發行

大正十三年十一月廿二日第三種郵便物認可（毎月一日一回發行）昭和二年六月廿八日印刷納本 同二年七月七日發行——第五巻第七號

賀川豊彦著

暗中隻語

我が賀川氏を以て、明治大正史を飾る唯一の聖雄といへば過賞であらうか。思想に藝術に社會運動に、全く氏の如く三拍子揃つて卓越した人格は、現時の世界では、他に容易に見られまい。本書は、氏が殆ど不治の眼病に罹り、數ケ月、暗黒裡に彷徨した際、恰も神來的に靈感した瞑想録で、而も端的直截簡明な表現を以て、人類生活のあらゆる根本問題を論斷し盡した新時代の倫理書といふべきである。附録の「アンペラ御殿」は、松澤村に於ける氏の簡素な日常生活の報告である。「小屋日記」は、「死線を越えて」の素材で、氏の半生中最も惡戰苦鬪した當時の尊い體驗録である。「死線を越えて」に泣いた讀者は此實際的記録に面しては、更に涙の滂沱たるを禁じ得ないだらう。

四六判四三〇頁
定價貳圓參拾錢
送料拾六錢

東京日本橋數寄屋町一
春秋社
振替東京二四八六一
電話大手 二一二四
二二二四

第五卷第七號　婦人運動　目次

詩

婦人運動

七月號



國際消費組合デーを祝へ

―その起源と目的―

社會改造運動の一つの動向――經濟的の――としての消費組合運動は世界を通じて大なる流潮をなしてゐる。而して近時の我國もこの動向に就いて異常の留意を差向けて來た。

千九百二十二年の國際消費組合聯盟は毎年七月の第一土曜日を國際消費組合デーとして決定し、その日を期して各地に於て示威行列をし、消費組合思想の宣傳普及をなすと共に、消費組合運動の持つ社會的指標にたいして公衆の留意を喚起することにした。これが國際消費組合デーの起源である。國際消費組合デーは千九百二十二年に初めて擧行したが、その意嚮はそれより數年前からあつたのである。國際消費組合デーは確立されて苟くも消費組合運動の存在するすべての國がその日を祝すべきことになつた。それは勞働運動に於けるメーデーに匹敵すべきものと言へる。

メーデーが勞働者の威力を公衆に示す如く、國際消費組合デーは、消費組合運動の捷利を宣布し、消費組合思想を宣傳し、國際消費組合運動の偉大なる目的を公衆に告知すべきその日である。であるから、その日は消費組合宣傳に大なる機會であるべきだ。毎年のその日が消費組合運動の威力を、各地的に、民族的に乃至國際的に示さるべきであり、七月の第一土曜日にすべての人々は消費組合運動は政治的にも社會的にも、人種的にも境界がなく、各地、各國、各大陸にも制限のあるべきものでないことを知らねばならぬ時だ。それは國際平和のためであ

り、各民族間の善き意思、全世界のすべての民衆のために共働であることを知るべきなのである。

われら無產階級の消費組合運動を主力とする關東消費組合聯盟は、本年より消費組合デーを擧行することに決し、國際消費組合デーである七月の第一土曜日を選んで世界各國の同じ運動者と共にその日を祝する。

われらはその日講演會を開催して消費組合の精神を弘布すると共に、街路に行列して公衆にその意義を訴へる。

その日の意義は單に公衆にたいして宣傳する計りではなく、また組合員自體の自覺を深到せしめその共同團結の鞏固と事業そのものの發展を促成しやうとするのである。

だから、われらはその日を選ぶ。われらはこゝにこの國に於いて最初の國際消費組合デーを決定し擧行することのそれを喜びとする。

產業組合は產業組合御發布のその日即ち三月六日を以て、產業組合デーとした。われら關東消費組合聯盟は七月の第一土曜日を選んだ。その日の決定は隨意ではあるが、われらは各國の同志の擧行すると同じ日を選ぶことに喜びをもちたいと告げる。そしてその方こそ國際消費組合デーの意味を持つものだと考へてゐる。

われらの聯盟は無產階級の聯盟である。勞働階級と密接で、勞働運動と並行的であるところの消費組合運動である。消費組合運動はブルジョア階級の手慰めになるものでは斷じてない。それは生活が不合理を生活的に訂正して行くと共に、來るべき新社會の光線を導入する所に意味があるのだとすれば、それは無產階級にとつて最も適應的のものでなければならぬ。しかも無產階級は國際的動向を最も多くもつものである。

われらはまだ發達の初期にあるわが國の消費組合運動を現在に於いて考へ將來に就いて考へねばならぬ。それを考察すべき日として選ばれた國際消費組合デーであることをわれらは考へたいものである。（新居格）

消費組合に於ける婦人の地位と其活動

ラツヒエル・ニール夫人
内田鶴吉譯

此は一九一〇―一九一一年英國消費組合聯盟の教育部が懸賞論文を募つた時、その一等賞に當選した論文である。

婦人が商店から物を買ふ。――一般の婦人はその家族のため利益を圖ることに余念がない。彼の女の夫が消費組合員になる。すると彼の女は組合の配當金がよろしいと云ふので組合から出來るだけ物を買入れるやうにする。

然し彼女は直と障碍に出遇ふ。バターが悪い卵が腐つて居ると云ふ風で組合の店全體が榮えない。汚い店に見へて來て彼の女が今まで行きつけの何々商會の壯麗な建物とは比べ物にならなくなる。そして組合の呉服部は！ 彼の女の從來の良い趣味やスタイルに引き較べて、組合に現在の流行物の少いといふことは、益々彼の女をして他の店から買物をさせるやうにした。

彼の女は組合でも或る程度の掛買が出來るといふことを知る。然し此は現金買ひの組合員に對して悪いことだと云ふこと、また、此の掛買が帳簿の整理上余分の支出を要し、經費を膨張させ、從つて配當金を減せると云ふことを知る。そればかりでなく掛買はゼイタクを奬勵することにもなるものである。もしも婦人が一週間の支拂をすることが出來なかつた場合には、また二週間支拂をなすこともできなくなるであ

ろう。配當金とはかういふ間の努力のうちに積み立てられて行くものである。そして彼の女は次の事柄が充分に分るやうになる。此の配當は、割がいいこと及び定收を持つた普通の婦人は綺麗サツパリとした組合から現金で買入れることによつて家計がうまく行くこと――組合の新鮮な安い品物、趣きのある品物の列べ方、感じのいい熱心な常務者、品物の早い切替へ等によつて――

彼女は其の店に居るのを言譯けするやうに身を半ばかくして居たが、店舗の內に一二枚の廣告を見出した。その廣告に『C、W、S、といふ商標の品物を買ふやうに』と云ふ意味のことが書いてある。事務員に尋ねると、CWSとは卸賣消費組合のことであると敎へてくれた。そして組合　理事が每週其所に品物を仕入れに行き、そして其所でうまい食事を振舞つて貰ふことを話してくれた。彼の女は理事が彼の女の買入れるものより更に良い品を仕入れるのでなければ、組合より食事のことを余計に考へて居たことになると思つた。そうした仕入方法ならば、彼の女は組合理事よりも更に上手に家を切り廻すことが出來るからである。

此の買物で組合のことが半分ほど分つたやうな氣がした。買物が全部終ろうとした時、彼の女は戶口に少さな注意書きのあるのを見つけた。女の筆跡で以つて、

『此所に消費組合婦人部（婦人ギルド）の會合あり、議題は消費組合に關して』と書いてある。好奇心にかられるまゝに彼の女はその招待を受けて入場した。階上に登る途中で彼の女は、各種の報告を見た。其所には主婦の從來の方針や心持をスツカリ一變させるやうな事柄が示されてゐた

然し彼の女は感情を制しつゝ婦人部の部屋に這入つて行つた、そして其所から新しい大きな世界が彼の女の前に展開されたのである。

彼の女は組合の店舗は一個人のためにあるものではない、單に彼の女一個の特別の利益のために動いてゐるものでないことを知つた。それは國中の消費組合といふ大きな網の一ツであつて、組合員間に利益を分割することによつて、各組合員の利害を組合員全般の利害に結合せしめ、正當な公正なる分配を創り出す。

そして彼の女は更にいいことを知つた。卽ち此の大きな消費組合運動は最も高い、最も崇高な原理の上に立てられてゐ

ること、またこの運動は、最初、生活狀態の最も惡い少數の勞働者によつて考へ出され、始められたと云ふことである。

彼等の目的とする所は店舗を設け、食料品、衣服類を現金で賣ることによつて組合員の向上を計るにあつた。また、利益の分配は、すべての正當な費用が支拂はれた後になされる將來は貨物の生産分配、住宅の建設、自分の組合に雇傭されること（セルフ・エムプロイメント）そして終局には、眞の自治――『國家內の國家』を實現しやうと期してゐるものであること。

利益の一部分は此等の目的を宣傳敎育するために使はれねばならない。

彼の女はかういふ運動を最も初めに始めた人々の意氣込みが身に感ぜられるやうな氣がした。そしてロッチデールの少さな店から始まつて今では數百に達してゐることを知つたのである。またＣＷＳが單に貨物の配給上の道筋であるばかりでなく、また生産上の一大機關であつて、純良な貨物を生産し、數千人の勞働者を正當なる條件で雇つてゐる。彼の女が買つた商品のＣＷＳといふ商標はかうした保證であつたのである。

尚此の他に生産組合といふのがあつて其所の勞働者は利益を分配し、消費組合の組合員に於けると同じく工場經營に關して參加權を持ち、全般の利益のために一層の關心と責任と發明の能力とを運動に注がせやうとしてゐることを知つた。

そして彼の女は、はつきりかういふことを知つた。彼の女の家庭及小供たちの利害は、他の家庭の利害が保證された時に、更に一層よく保證されるといふことを。そして消費組合は彼の女に取つて從來とは全く違つた意義を持つやうになつた。彼女は組合の品物を買ふといふことによつて、此の如き幸福を持ち來すのに、力を添へることが出來るのである。自己の欲する所此を他に爲せといふことをしかも最も容易な方法でやることになる。彼の女は買物籠（Market-basket）の力が『消費組合運動の血管の血』であること、すべての消費組合婦人の地位、活動は、彼の女が『買ひ手』としての地位であり、買い手として、活動をすることにあるといふこと。

新しき意氣込みと生き生きした熱心で彼の女は新しい出發を切つた。然し彼女は直ちに他の難關に當面した。其は組合の生産だけでは品物を取揃えるに困難であるといふ事である此れ此れの品物は『店にない』此れ此れの品物には『需要が

ない』其は組合員が『好まない』個人商店の品物に組合名のペーパを、コツソリと張りつけてあることは彼の女を怒らせた。彼の女はスツカリ迷ひ込んでしまつた。消費組合は主として他の人々の商品を賣り、其を高々と廣告してゐる。此は滑稽なことである。人々が直接他の店から買ひ、ＣＷＳは單に他の個人的生産者の品物の仲繼商人たるに過ぎないとしたらば、組合が自分の工場を作るなどいふことの意味は何所にあるのか？消費組合運動の血管を流れる血液は非常に良い。然し正當な品物が後から後から供給されるでなければ正しく貧血病である。

彼の女は未だ組合員になつてゐなかつたために、未だ『買物籠の力』をほんとうに獲得する力を持つて居ないことを知つた。

そこで彼女は早速組合員とつた。全生活をあげて消費組合の人となつたのである。彼女の最も多く關心を持つてゐる問題について討議し決定する權利を與へられたのである。然し自由には責任が伴なう。

消費組合のユトピアを實現するためには、忍耐、努力獻身的熱心が必要である。

掛買は不名譽なことである。消費組合の第一原則に反してゐる。『組 合に押れても掛買するな』利益配當の前に諸費用が支拂はれるべきである。此の運動に雇はれてゐる人々に對する賃銀が、殊に婦人少女に對する賃銀が當然でない場合の如きは、利益配當の前に先づ此等のものが適當に支拂はれねばならない。

彼の女は此の點に非常に責を感じて、彼女が組合から物を取る樣になるや之にずつと反對して來た。此を變へねばならない、然らずんばむしろ組合運動者たることを止めようと思つた。

然し再び問ふ、どうしてこれらをする事が出來るか？店舗の内外の清潔清楚に對して誰が直接責任を負ふか、勞働時間、その賃銀、業務規定、現金か掛買か、組合製造品の供給等に對して誰が直接の責任者であるか？經營委員は組合員中から選ばれる、それだから彼女が其の責任を果そうとする力を得ようとならば經營委員となることでなければならぬ。

然も此の委員の中には婦人が居ないのである。そして消費組合の主要な活動は家庭――『婦人の世界』――の需要を調達

する所にある。それだのに彼女は此の家庭の需要に對する計畫に何等參與する權限を持たないのだ。彼女が買ふ布や婦人服、婦人帽等でさへも、すべて男子によつて選擇されてゐるそして婦人は其の趣味や考へに合はうが合ふまいが、其を柔順に買ふやうにさせられてゐる。

彼女が婦人も責任ある地位に選擧されるやうにといふ主張を試みた時深刻な反對に會つて、消費組合が婦人に對する機會均等を與へないといふ非常に大きな誤謬、運動の成功に向つての重大な故障を見て取つた。彼女にとつて組合の理事、委員、議長、書記等すべてが男子であることが悲しかつた。

彼女は消費組合の知識と經驗とを得るにつれて運動を通じて卸賣りと小賣り、生産と分配に於て間違つた仕方　あることを發見した。規約に定めた例外を除いて、樞要な權威のある地位はすべて男子が占めてゐる――男子が經營し、男子が仕入れ、男子が監査し、男子が方策を立てる。男子が何所でも指揮し、管理してゐる(かゝる地位に對しては、名譽と光榮が與へられ、力と俸給とが與へられてゐる、そして其のわけは勿論云はないでも分る。)

かくの如き片手落ちな消費組合のやり方、二分五厘(利益の)敎育宣傳費を使つて、既に七十年を經たが、現狀はどうか。『すべての物を消費組合から』を實行する週間の試みとか、婦人使用人最低賃銀確立の運動などがそれであつた。

若しも婦人が眞の消費組合の訓練を男子と同じく受けたら組合で賣る品物に傷物が出來たり、賣行が惡くなつたりすることがあらうか。婦人が主婦のやうな心掛けで店舗に手入れをした時不衞生な狀態が起りはすまい。婦人が經營に就いて責任を分擔された時、それに不忠實で居得られやうか。

婦人が消費組合は掛買ひの悲慘と墮落とから逃れる一ツの途であるといふ所にその目的の一ツがあるといふことを理解しない場合に、組合運動から掛買を無くすことが出來やうか組合婦人が結合の勞働條件に關する管理權を持つてゐない場合に婦人勞働者に最低賃銀確立運動をする必要が出て來るだろうか。

彼女は婦人ギルドに於ける婦人の活動を尋ねた。そして充分によく分るやうな回答を得た。

其等の婦人は消費組合の理想を決して見失つたことはなかつた。此の運動の最高使命を果すために出來るだけの力を盡した。また彼女等は組合全體の利益のために配當を積立てて

行かうとして、現金買制度に再び立直した人々であつた。彼女等は最低賃銀に關する運動に對しても責任ある立場を忘れなかつた。彼女は消費組合を最も要求し、それの生れ出なければならぬ所から此の運動を始めやうと試みたのであつた。

彼女等は此の運動に於ける男女の同權が認められて居なかつたにも係らず、彼女等は自分自身を教育し訓練した、そして今では消費組合員として男子と全く同等なる資格を持ち得るまでに至つた。

彼女等は消費組合運動の義務と責任とを知つてゐる。彼女等は貸借對照表の讀み方やその批評の仕方をも知つてゐる。消費組合で生産する品物に對する十分なる判斷を持つてゐ、男子が彼女等に語るよりも更に適切なる需要を作り出すことを知つてゐる。彼女等は婦人の利害好不好を最もよく知てゐ最もよく其に應ずることが出來る。彼女等は『會議』を開きそこへ彼女等の代表を送る。そして消費組合に關する專門的な忠告を送る。以上述べた所を要するに、男子及婦人の利害責任、義務、能力は同一であつて云ふまでもなく消費組合婦人の地位及活動は消費組合男子の其と何等異る所にある筈はないのである。

『如何なる地位であつても彼等の能力に適合した所に置けそれが（買手としても組合幹部としても）我々の幸福を進めるについて最もいい仕方である』

然らば何故に婦人が、その地位にありその活動を爲して居ないのか？ 其所には次の障碍がある。一方では男子の一群が組合の商賣上、實質上の成功を熱心に心配してゐる。他方では婦人の一群が道徳上の成功を熱心に目指して努力してゐる――然し別れ別れに活動してゐるために何れもその目的を達成することが出來ない。

完全なる事物を作り出そうといふには男性女性の二要素の共働が必要である。人間の幸福を増進するためには、完全なる共働に向つて手を携へて進まなければならない。

何が彼等を分離せしめて居るか、其は消費組合の原則を忠實に守らないから――男性の遠い慮りのないため、女性に機會均等の與へられてゐないため。

共働組合の意味を兩性の分裂と反對ではなくて共働と提携の意たらしめよ。

積極的要素と消極的要素とを共働せしめよ。

茲に於て世界は消費組合といふイルミネーションによつて明るく照さるゝであらう。同じき能力、同じき機會の男と女がそれ〳〵の持場持場で共に働き、二つの電力機械を運轉したならば、世の如何なる力も此の消費組合の偉力を打ち負かすことは出來ないであらう。

今や其の時代は近きつゝある。時代は其の豫感に滿ちてゐる。何所の消費組合の世界に於ても、男子は婦人が男子と共に提携してやつて行かねばならぬといふことを理解し始めてゐる。そして婦人は以前よりも、少くなくとも向上して來てゐる。從來此の運動に於て女性の地位を卑下し壓迫して來たのは非常に大きな誤りであつた。忠實、同情、聰明等の『助け合ひ』のあることが此の成功の本質的なことである。

婦人は此の事を以前から知つてゐてこれを遺憾に思つてゐたのであつた。そして長い間それに耐へてゐたのであつた。組合事業の負擔を二分し、その喜びを二倍する時の來るのを期待して。今や男性と女性の間の愚かしき防壁は既に取り懐たれた、そして婦人は經營上敎育上の委員に、本部役員或は聯合會に於ても其の地位を得つゝある。やがては消費組合運動に於ける最高機關の正當なる地位をも得るであらう。

かくして間もなく消費組合婦人ギルドの必要もなくなるであらう。そして男女は、共に差別なく國內的、國際的、消費組合運動のために働き、全世界はかくして眞に幸福になるであらう。

『誠心より希望は湧き來り
　友情より力は生る
歩みは速く道は照され
　我等の旅はかくして歡びに充つ。』（センチネル）

そして、かゝる時代は來りつゝある。

（附記）一、此の小論文については此が改良主義的であり、『建設的』であるといふので不滿を抱かれる人々のあることを知つてゐます。次の機會で私はロシアに於けるものを譯したいと思つてゐます。

二、此所で私は大體同じ立場をとると云へるウルフの『民衆による產業管理』中の一節を附記したいと思ひます。

ウルフは右の論文中『產業の勞働組合的管理と協同組合

的管理』の節の中で『協同組合主義は産業管理權を消費者に與ふるに反し、サンヂカリズムは之を生産者に與へる』ものであるとし『此の制度（サンヂカリズム）によれば現時の制度の弊害が再び現はれることになるであらう。産業の各部門は、全民衆のために、全民衆によつて支配せらるゝことなく民衆の一部分によつて其の利害のために支配せらるゝであらう。……若しも産業が勞働組合の様な組織體の手に渡され、之れによつて支配せらるゝならば婦人が其の支配につき當然有すべき發言權を持たぬことになる。婦人は産業に於ける少數者である。婦人は世界に於ける大なる生産者であるが、其の仕事の四分の三は産業ではなく、且つ之に對し支拂を受けて居らぬ。家政、育兒等は産業の一部であるとは考へられぬ。支拂を受けぬ婦人勞働者に對しては勞働組合がない。……支拂を受けず、而も産業勞働者に劣らざる仕事を爲してゐる之等の婦人は生産を主眼として組織せられた産業の支配に於てはその意志が代表せられず、代表させることも亦困難である』

婦人ギルドは

婦人ギルドによつて、消費組合が如何に婦人を助け、婦人が如何に消費組合を助けてゐるかといふ事を見る事が出來る。

婦人ギルドは、母として、妻として、市民として、向上する爲めに必要な主婦の機關である。

婦人ギルドは、協同生活、國民生活に於ける勞働婦人の進歩と力を發揮する爲めに出來てゐる。

健康な少兒、幸福な家庭、
美しい都市、
協同の富、を齎すために
あなたの選擧權を用ひよ。

消費組合は

物價を下げ、
營利を廢し、
勞働者の向上の爲めに職業組合を助け、
戰爭を止め、眞の平和を齎らすにあり

近事三題

奥むめお

『婦人運動』の回顧

私が古い印刷代のために支拂訴訟を起されたといふ事が新聞記事に出てゐたので、方々へ御心配をかけた。あの時分の事をいろ〳〵と人から聞かれると、その度に私は憂欝になつて困つた。

その頃私は、生れて未だ四ケ月ばかりの紀伊ちやん（現四歳）を抱いて南紀伊の××町から出て來たばかりであつた。五つの杏一を促し〳〵赤ん坊を抱いて出歩くには丁度七月の暑い盛りで苦しすぎた。印刷やでは支拂ひが滯つてゐるものだから、七月號の雜誌（第二卷）が校正刷のまゝ棚の上に埃まみれに打ちやられてあつた。雜誌は震災後中絶してゐたのを若い人たちが再刊して、私が田舍へ歸つてゐる間に四、五、六、七と發行をつゞけてゐたのであつたが、丁度私が上京した頃には、みんな散り〳〵に逃げてゐた。

私は餘つ程もう、この雜誌を引續いて發行する事をやめてしまはう、とあの時思つたのであつた。その時分の未拂ひの分が、さき頃訴訟沙汰になつた、二百六十圓である。田舍から出て來たばかりのあの頃の私には、それは、責任がないと云へば云ひ得る事情がいろ〳〵にあつたので、いつそ辭めてしまはうかと餘程惑つたのであつた。然し、あの頃、印刷やの手きびしい督促に居耐らなくなつて逃げた人達を嗤ふ心を私は毛頭持つてゐなかつた。（その後雜誌の經營の苦しさを身に泌みて知る程、並み大抵の覺悟では、こんな仕事は續けてゆかれるものぢやないとつく〴〵と思ふ樣になつてゐるので、尙更人に求むる心は薄く々々と何時の間にか自分で自分を使

ひ觸らしてしまつて來たやうであるが)

その頃よく雨が降りつゞいてゐた。思ひ出しても暗い氣持になるのであるが、毎日同じやうな惑ひを惑ひつゞけて重たくふさぎ込んだ心で、傘をさして——子をお負つて——出かけるのはほんとうに辛い事であつた。

然し、その間にもだん〳〵と私の心の中へは雜誌に對する愛着と云つたものが湧いて募つた。殊に、みんなから放げ出されて獨りぼつちで印刷やの棚の上に埃まみれになつてゐる雜誌の姿が私にはたゞいとほしかつた。いゝ主張をもつて立つてゐるのに、待つてゐてくれる讀者もあるのに、とかう思ふて來ると、どんなにしてでも育てゝみたいといふ熱が出て來た。放げ出すのはいつだつて投げ出せる、とにかく自分でもうこれだけで精一杯!といふ所まで自分の最上の努力を拂つてみた上の事に全ては任せたい。殆んど三十日程迷ひ拔いた揚句にとう〳〵かういふ決心が私の心についたのであつた。

さうして續けられてゐるのがこの『婦人運動』である。然し、第五卷の七月號の編輯を急いでゐる今私の心を壓へつけてゐるものは、私は未だ一度だつて自分の最上の努力をこの雜誌の上に試みた事がないちやないか、といふ自責と悔ひである。

「隨分ムリな經營上のやりくりに追はれてゐるのですから、編輯の上に不滿足な點が多いからと云つて、私は、その責任の半分ほどしか背負ふわけにゆきませんわ。」

とは、よく私の云ひ〳〵する言葉であるけれど、ものゝありやうは決してそんなものではないといふことを私は知りすぎる程知つてゐるやうだ。五年經つても同じやうに困難な經濟的基礎の上に傺えてゐるといふ事それは、確かに編輯者の私の責任である。私は當分能ふ限りに自分の關係する範圍を狹めて、この雜誌をいゝものにするために骨を折つて、讀者を殖やし、この仕事の基礎を固めてゆく樣に圖りたいと希つてゐる。

然し、いゝ讀者を持つてゐるといふ點では私は、どの雜誌の編輯者よりも大きな誇りを持つ事を許されていゝと思つてゐる。數に於て云ふに足りない程だとしても——。私が時折讀者から貰ふ手紙の中には、齒の浮くやうな文化婦人の叫びがない。じめ〳〵した日陰に咲く花のやうな血の氣のない嗟嘆もない。とにかくみんな生活を摑んでものを云つてゐるといふ點で三千萬の婦人の中の中堅階級と云つたらいであらう

か。かういふ世にかくれた婦人――ほんとうに生きてゐるといふ感じのする婦人たちの力が一つになつて社會的に働きかけてゆく日こそ、案外大きな根強い力として世を動かす事も出來るだらう、と、心秘かにそれを、私自身の喜びにも誇りにも思うて常に前方を凝視てゐるのである。

『職業婦人の家』に就いて

職業婦人社の事務所に大分若い人たちがたづねてみえる樣になつた。然したつた二脚しかないけちな椅子で、さあお掛けなさいとも云ひ兼ねて、いつも私たちは辛かつた。殊に一日の勤務を終えて來られるもの、晝休みのちよつとの間を驅けて來て遊んでゆかれる人たちが多いのであるのに、かういふ人たちのためにもつとゆつくりと氣休めが出來るやうな相當の設備をもちたい、私たちは仲間同志で始終から云ひ〳〵してゐた。

さういふ心が今度の『職業婦人の家』の建設を思ひ立たせたのだとも云ひ得やう。未だ雜誌の基礎も固まらないでゐるのに、更に、新しい計畫に手をつけることは非常に無謀にもみえようと思ふのであるが、然し、この『家』の必要は絶對的である。この『家』を中心にして、私たちは雜誌の基礎の擴充も計りたく、他の仕事に就いても考へ及ぼしたい心算でゐる。

少し『家』に就いての私の夢を語らせて貰はうか。私のやうに夢を持たない人間に、天驅けるやうな素的な夢はないとしても、それだけに現實と紙一重と云つてもいゝ私の夢は、ちよつと手を伸ばしたらすぐに屆きさうなものばかりである。

もし私のやうな人間が夢を持つた場合があるとすると、その瞬間すでに私は、その夢を現實にするための努力に就いてゐるのであるらしい――。

閑話休題『職業婦人の家』は第一に娯樂休憩の家である。私たちが一日の營みに疲れて『家』に歸つて來るとき、そこに名畫名曲の備へはなくとも何となしに心が靜かに落付いて、しみ〳〵とした氣分で自分自身の姿に立ち返つてものを見ものを考ることが出來る。『家』に近く鬱蒼と繁つた木かげ森かげがあれば更に嬉しい。ざつく〳〵と草を踏んで歩きまわるのにいゝやうな草つ原があればなほ有難いと思つてゐるが、いや土一升金一升の東京でそんな願ひを希ふことは撤回してもいゝ、氣の合つた話相手遊び相手があつたらもうそれだけ

でも充分でないか。
それに、現代に、而して將來に生きてゆく爲めに必要とする程度の圖書雜誌新聞類の備へつけも常に心掛けてゐたい。
主として婦人に關する世界各國のニュース、レポート、我國婦人界一般の動向、その他一目ですぐにパツと心の中に刻みこまれる樣な報導や研究資料やビラの貼布陳列。
共同炊事場と共同洗濯場との設置には私たちの大な夢が繋つてゐる。私たちの運動を眞に大衆的な板についた運動にするためには、まづ婦人の生活を今のやうな煩鎖な、非科學的な臺所生活――家庭生活から解放しなければ駄目である。婦人を從來のやうに煩はしい家庭生活から解放するために、そのための一つの試みとして、わが『職業婦人の家』に炊事場があり、洗濯場があるのであつて、私たちの個々の家庭にそれを利用するには高價すぎてとても手が屆きさうにないけれど、とにかく便利で重寶ないろ〳〵な家庭用機具類、私たちにとつては僅かにカタログやショウウヰンドウの中で眺ることを許されてゐるだけの其らの文明の利器を出來得る限り私たちの『家』に設備し、てさてゆる〳〵と將來の私たちの生活樣式をどう建て直すかに就いて考へてみたいと思ふのである當面の問題として不自由な部屋借りの職業婦人たちが、ちよつと『家』に立寄つて洗ひ物をしてゆくなり、煮炊きしてゆくなり、或ひは、專屬の人を置いて分業でやつてゆくといふ風にするなりして、日常の生活を出來るだけ便利に改めてゆく事も出來やう。
とにかく私は近い將來に今日の科學文明が私たちの家庭生活の上に齎らしうる限りの利便を、家庭婦人の協力に依つて、あらゆる家庭に應用するまでになりたいと常に希つてゐる。
婦人運動がほんの少數の知識階級の文化婦人の自慰的なお道樂運動から、眞に大衆的な婦人の實際運動として出直すためには、私たちはかういふ手もと足許の問題から考慮してかかる必要があると考へられるのである。
簡易宿泊室は、失業婦人求職婦人一時の宿に困惑してゐる婦人たちのために少しでもよけいに役立てばよい。とは云ふものゝ、私達のこの企ては、數限りもない職業婦人、失業の婦人の願望の前には、宛で地上に落ちた芥子粒のやうなものである事は今更云ふまでもない。然し婦人自身がその芥子粒を播き培ふ事をしないで何處にバベルの塔があらう。さうした意味でこの企ては他日國家及び社會が當然持たなければなら

ぬ設備としての大規模な施設を招來させる爲めの重要な捨石であるであらうと私は思ふ。

『消費組合聯盟婦人部』と『婦人同盟』

六月五日の消費組合聯盟の大會で婦人部がいよ〳〵公けに生れ出でた。婦人運動が消費組合のやうな實際的なところから新しいスタートを切つて進められたといふことは意義の多いことでなければならぬ。

大正八年以來四年越し鬪つて來た私たち婦人の政治運動が效を奏して、(十一年三月治警第五條中の一部修正)記念すべきわが第一回婦人政談演說會が催される事になつた當時、私は自分で自分に問うてから心で繰返した『婦人參政權要求！それは三千萬婦人のためにか？　自分自身のためにか？』と。

十人や二十人や五十人の婦人が參政權の必要をいくら叫んだところで、婦人大衆がそれらとはまるで沒交涉な無自覺な生活をつゞけてゐたのでは結局どうならう。

かう自問自答してゐる內にも、私の子をお負つた貧乏生活がつゞいてゐた。濯ぎ洗濯、縫物、解き物、御飯ごしらへから用達し、子守り、原稿書き等々一切合切を自分の手一つでやり繰り乍ら、その傍らにみんなに從いて參政權要求の運動を續けてやるには、私の心も身體も、懷ろ工合も！　餘裕がなさすぎた。

その頃次第に重くなるばかりであつた自分の足もとをみつめ乍ら、とう〳〵思ひ切つて私はいはゆる政治運動から身を退いたのだつた、と回顧せられる……

昨日は偶然にも私の家へ、足手まとひな子を負うて、パンのみちに途方にくれてゐる友人(女の)が二人つぎ〳〵に訪ねて與れた。あゝいふ人達の苦しみをみる每に私の心は怒りに慄える。子供さへ安心して育てられない世の中だ！

何といふことだ！

然し私はその友人たちに云はずには居られなかつた。『人間は子を持つと意氣地がなくなるもので、たゞ〳〵パンの途さへつけばいゝ、食つてゆかれさへすればそれでいゝと云つた風な弱い氣持になり易いものだけれど、それではなるまいと思ふのです。食つてゆくだけの事なら、どんなにしたつてやつてゆかれる。否！　われ〳〵に出來る事はやつと食つてゆかれる程度のことでしかないのです。今の世の中でどんなに

働いたところで――で、どうせやつと食ふだけの事しか出來ないのだとしたら少しでも生き甲斐のあるところに自分の生活を見出してゆきたいぢやないですか。母親として子供さへ安心して育てゆけないこの世の中で、親としてのあなたの怒りと子の怒りを何とか世に生かして仕事が出來ないものでせうか。私は近頃の暑い日盛りを子を負うて喘ぎ〳〵歩いてゐる母親をみると、去年までの自分の姿をそこに見る樣な氣がして胸が締めつけられる。たまに託兒所の前を通つても、杏一が私の迎へに來るのを待ちわびて泣いてゐたあの時分の聲をこの耳にあり〳〵と聞く樣な氣がして涙ぐんでしまふのですが、今私の云ひ得る事は、そんな時いつも私は、自分のさういふ場合の涙と怒りをぢつと耐へて胸の中で燃しつゞけてゐたといふ事です。ぐた〳〵に綿のやうに疲れて倒れたときでも、私はとにかくそれに敗けないで起ち上らうと努力したといふ事です。一人びとりに放つておけばみんな力の弱い女であるけれど、私もあなたもその外の人もみんなの心が一つに凝つて固つたら、そこには大きな力が湧かうと思ひます。お互ひに支へ合つて働いてゆかうぢやありませんか』――と。

私は、いつもかういふ心で婦人運動一般社會運動をみてゐる。そして私の心は、さういふ意味で新しく起つた二つの婦人運動『婦人同盟』と『消費組合聯盟婦人部』の活動に大きな期待をつないでゐる者である。

婦人同盟に就いてはらいてう氏も書いてゐられるが、その出發點が從來の婦人運動のとつて來たところとは全然別個の社會的階級的なものであるといふ點でまさに劃期的なものと云つてよからう。この二つが今日以後の婦人運動の中軸となつて、從來のやうな文化婦人の金切聲の運動とは全然別の、ぴつたりと婦人の生活に即した實際運動として根強く起されるのであらうと信じて疑はない。たゞ婦人同盟に就いては掛け聲や、對社會的な宣傳にはやり易い心を押へて、どこまでも氣長に婦人自身に依る結成へと進んでほしいと多少の杞憂に似た老婆心を含めて左樣願はずにはゐられない。(私は婦人同盟の樞機には直接加つてゐないけれど他心あつての事ではない。とにかく『職業婦人の家』を建てゝ仕事の基礎を固めてしまふまで、私は當分あちらこちらに自分の力を裂くことを恐れてゐる。)

かつこ鳥

伊福部敬子

山寺の夏の宵は、
うすら冷たくわびしい。

跛をひく寺男が
七つの門をとざしてしまふと
參道の石だたみが長く、白く、音たてず
杉の大木が俄かに一丈ものびて
經堂の庇から、蓮池の花びらから
晝はひそんでゐたいろいろのものの『氣』がよみがへる
あゝ、その冷たいこと！

ほう、ほう、ほう、
暗い樹の上から、かつこ鳥が友達のない私によびかける
あれはこの寺に骨を埋めた人々の魂なのである。
ほう、ほう、ほう、

私が答へる間、だまつて聞いてゐる、
あの暗い木の間で首をかしげてゐるのだらう。

村方の灯ははなやかに織りまざつて
たあいない若者らの宵話をおもはせる
ゆかたの袖に戀風をはらむ娘たち
花火線香が雪やなぎのかげに咲くだらう。

それは、とほいゝこと、
若い父の諷經の聲、
五輪の法燈をにじませて夜霧が匂ふ
月見草のやうな『をとめ』である私は、
青白い神經をいらだゝせてゐる明星に向いて
不思議なる永遠によびかけようとあせつてゐる。

ほう、ほう、ほう、
見えない夜空からよびかける
ほう、ほう、ほう、
私はそれに答へながら、かはらない友情に涙をながす。

移りすみて

大道寺浩一

夜は殊に
爛熟した綠の精が
生ま暖かい微風に乘つて來て
惱殺するやうな香りで蠱惑しては
のつぴきならぬ私の感情を放蕩させる
新らしく小さな私の借家が
さらに小さく思へるほど
外にはひろ〳〵と麥畑が展け
星は囁き瞬いて
小川の隅々からは

賑やかな蛙のこゑが一齊に醱酵する
私はそれらのために
九分通りも奪はれてる
晝の生活を忘れてる
そして――!
小さな家が破裂するほど
勝手な空想の雲を群がらせ
冒險を振り廻しては神樣にねだつたり
わがまゝなかなしさの泪に濡れる
借家爭議で追はれて來たが
私はこの新らしいマツチ箱のよな
家に移り棲み乍ら
雷のよな幸福が落つこつて來ぬかと
思つたりする男です。

婦人の横の動き

下村　海南

婦人が横に聯盟して、かりに織物の大幅買入れを主張し小幅の排斥をやつたならば第一に外國の織物も内地向の織物も同じ大幅となり、製造販賣に非常なる利便を得るのみならず、小幅の爲め縫込みなどに失ふきれ地が一年に積りて一億圓以上の節約になる。それで大幅の方が裁縫にも小幅より遙かに時間の節約ができる、此位分り切つた事が未だに實行されないのは、目ざめたる婦人はそれ〲に承知されてゐても、只バラ〲に銘々が承知してゐるだけで横に婦人の手を引いてゆく運動がないから少しも實現されないのである。

現に日用品の買入れでも第一に新聞でも小說欄や社會欄はよく見ても經濟欄はつい眼を通さない、物價の高くなる時は皆樣が默つてゐても小賣商人の方は遠慮なく敏捷に上げる。しかし安くなつた時は小賣商人は中々下げない、第一主婦達は其の上がり下がりをよく知らぬ、又知つてゐても八釜しく云はぬ、女中にも心得さしておかぬ、小賣商人はゴマカシ放題である、これが歐米であつたらさうした小賣商人は先づ無い。もしあれば婦人達は不正なる商人として不買同盟をするボイコツトする、現に昨今は京都大阪名古屋方面がモラトリアムで現金拂となる、一般に景氣が引き締つて魚類にしてが實行が惡い、初物とか走りとかいふものはみな東京方面に仕送られて東京の問屋は荷支へになりひらめでも鯛でも半分近く値が下がつたが小賣の方は一向に下げない、ラヂオや新聞に公設市場の相場などしらしてるが、どうして小賣屋連中は泰然自若として値下げしない、臺所へ顏を出した御用聞きに一本參るとよいのだが、そんな憎まれ口でもといふのか皆遠慮して云はない、偶々ラヂオで値段がなんぼ下がつたと云つてましたよといふても、放送ですかとも感じない。

消費經濟の上に先づ日用品の購入方、又之に對する婦人の動き、婦人の同盟による商人に對する監視、さうした事が物價高値であり失業難生計難の聲高き我國では殊に必要である。

子供の生存權を主張せよ

賀川　豐彥

統計に依ると我國の死亡率は人口千に對し約二十一人乃至二十二人であるが、これが乳兒となると明治十九年頃には出生千に對して八十人位のものが今日ではそれが百七十人以上も死ぬるのである。

大凡子供就中赤ン坊の多く死ぬのには二つの原因がある。一つは母親の勞働である。多く勞働する家庭ほど、赤ン坊は多く死ぬのである。第二には家庭の收入不足である即ち收入の少ない家ほど赤ン坊が多く死ぬのである。更に第三は赤ン坊を世話することが面倒くさい家庭ほど赤ン坊を殺すのである。これは不思議なことであるが、我國の女學校の卒業生の間において、赤ン坊の死ぬ率が隨分高いのであるが、これは現在の女學校は赤ン坊を育てるやうな母を養成しないといふ事になる。加ふるに最近我國の女性が漸次職業化しつゝあることをも見

逃すことは出來ない。その日の生活が苦しいために、さうして收入が少ないために、それらの人には子供を育てる餘裕が保てないのである。今や醫者が四萬六千人、看護婦が六萬人、醫科大學が十七も出來たに拘らず、赤ン坊は少しも死ぬ率が減らない、これは實に驚くべき現象である。

殊に我國農村の赤ン坊ほど現に可哀想な狀態に置かれたものはない。例へば兵庫縣加西郡の郡全體の乳兒の死亡率の統計を見よ、それは大阪よりも遙かに多いのである。即ち千人の出生に對して二百四十人、斯う云つた事實を見るとき我々はなぜ我國の死亡率が減らないか、明治十九年より一直線に醫學の進歩に反比例してなぜ死亡率が上つて行くのか根本理由を察することが出來る。私共は最近聲を張り揚げて、赤ン坊を救へ子供には生きる權利がある。民衆よ目醒めよ、勞働階級も、小作人も、金持も、醫者も、みな今迄の方法を棄てゝしまへ、さうして赤ン坊を生かせよと叫んでをる。私共は今日まで醫療費の高いことを問題とした。しかしいまはその高い低いの問題ではない、國民全體の榮養の問題國民全體の收入の問題を解決しなければ、乳兒の死亡率は下がらないと考へて居る。

我國の赤ン坊が死ぬるには、もう一つの理由がある、それは黴毒が餘りに蔓延し過ぎてゐる。酒を飲み過ぎてゐる。それらの事實が乳兒死亡率を下げない別の一つの理由になつてゐる。

選擧費用の問題

尾崎 行雄

世間に普通選擧になれば、一般人民の代表者を衆議院に送ることが出來ると考へて居る人があるやうですが、それは全く夢にならうと思ひます。次の總選擧をやつて見れば分りますが、今日のやうに選擧費用が多くかゝる以上は、普通選擧になれば、財閥の手先が殖えて、一般人民の味方は減ると私は思ふ。

現在の選擧入費は、平均五六萬圓、多いのは三四十萬圓であるから、普通選擧になれば、多分七八萬圓は要りませう。一般人民の代表者がどうして七八萬圓の金を選擧の度ごとに出せますか、出せる氣づかひはない。是に於いて團體的に財閥に交涉して援助を仰ぐより他に途はない。其時には財閥に身を賣つた時である。一人々々賣らうとしても、駄目だ、團體的に賣らなければならぬ。此身賣り機關を、政黨と名づけて居ります。

選擧入費を選擧人が支辨するやうになれば、段々減りますが、候補者に出させる以上は殖えます。英吉利の如き物價の高い國でも、勞働黨が最近の總選擧に使つた費用は、選擧人の少ない所は七百五十圓、極多い所で一萬圓であつた。それだから勞働者の代表者が今日減つても、尙ほ百五十名以上出て居り、此前の總選擧には二百人近く當選した。

日本のやうに五六萬圓以上も要る國では普通選擧にならうが、女子に參政權を與へようが、勞働者の樣な財產の乏しい者の代表者を、五十人と出すことは出來ないと信じます。之を出すには選擧費用を減らすより他に途はない。而して候補者に出させる以上は必ず殖える。故に選擧人に出させるやうにして之を減じた。さうすれば、其仲間が殖え次第、一年に五十錢づつでも、十錢づゝでも足ります。其仲間少なければ、一年一圓位づゝは出さなければなりますまい。私の選擧區では、政治訓練費と選擧入費を合せて、每年十錢づゝ出すものを一萬人集める目的で、過日其發會式を擧げました。

「勞働者の女神」

ルイズ・ミシエル

近藤憲二

◇

フランスの勞働者から『革命の化身』『勞働者の女神』とうたはれ、また『善良なルイズ』『恐怖を知らないルイズ』と云はれたルイズ・ミシエル（Louise Michel）の生涯こそは、まことに我等の血を沸き立たせるものがある。

彼女は、一八三〇年、南部フランスのブロンクール古城で生れた。母は貧困な農民の孤兒で、侍女としてこの城に雇はれてゐた時、城主の息子との間にルイズを産んだのである。ルイズはこの城内で、まる二十年間平和な生活を送つた。父は非常に動物が好きだつたので、いろんな珍らしい動物を飼つてゐて、城内はさながら一小動物園かの觀があつた。從つて小さいルイズも、自然それ等の動物と馴れ親しんでゐた。

しかし、この平和な生活のうちにも一つの惱みがあつた。即ち私生兒としての悲哀である。そして遂に、一八五〇年、父の死に逢つて、母と共に僅かな手切金で古城を逐はれた。それ以後は、素より貧乏の苦しみをなめなければならなかつた。だが、これからがルイズの本當の生涯なのである。

◇

古城を逐はれたルイズは、衣食のために小學校の教師になつた。だが、官公立學校に就職するには政府に宣誓しなければならないので、それが嫌やで、母と共に一小村落に移つてそこで私立小學校を起した。勿論ごく小さな學校で、しかもその兒童は貧乏人の子供ばかりであつた。この頃から既に、ルイズには或る芽ばえがあつたのである。

一八五六年、パリの一私立小學校から招かれて行つたが、僅かな報酬から常に貧しい人達に分ち與へてゐたので、母子の生活はまことに慘憺たるものであつた。『あり餘つてゐる者は、なぜ貧しい者に與へないのだらう。なぜ最も必要を感じてゐる者が滿されないでゐるのだらう』この疑問は遂に彼女をして社會組織の缺陷を自覺せしめ、社會運動の一戰士たらしめたのである。ルイズは、慈愛と勇敢とを父から受けたが、その貴族の血は繼がなかつた。常に平民の味方であつた。母方の祖父が持つてゐた社會改革的思想が、彼女に或る感化を與へてゐたことでもあらう。

一八七〇年、普佛戰爭の風雲急を告げたので、ルイズは同志と共に非戰論を高唱し、パリに一大示威運動を開始した。これによつて自由の戰士としてのルイズ・ミシエルの名は全フランスの知るところとなつたのである。

◇

ナポレオン三世は連戰連敗してセダンに降り、帝政は倒れて共和政府が樹立せられた。しかし、革命黨はこの資本家政府を否認して共產的コンミユンを求めて一揆が勃發した。謂ゆるパリ・コンミユンである。

ルイズも素よりこの一揆の中にあつた。銃を取つて戰ふ傍ら、負傷者の看護に努めて、最後まで防砦に止つた。その勇敢にして大膽な行動に感じない者はなかつた。『恐怖を知らないルイズ』の面目を遺憾なく發揮したのであつた。しかも、この彈丸雨注の中にあつて一彈も受けなかつたのは不思議な幸運と云ふべきである。

が、遂に捕へられて法廷に立つた時、彼女は次ぎの如く云つた。

『私は自分を辯護するものではない、また辯護を望むものでもない。私は銃を握つて捕まつた、この事實を否認しやしない。』

裁判の結果、無期徒刑囚としてニユウ・カレドニアに送られた。アンリイ・ロオシエフオルも一緒だつた。ニユウ・カレドニア　のルイズは、同囚の病人を看護したり、壓制に惱んでゐる土人を慰撫したりした。土人に接するところから土語を覺えて、土人から聞いたお伽噺で一冊の面白い本を書きまた土人の兒童のために小學校もこさへた。

一方、パリ・コンミユンの犧牲者に對する同志の猛烈な特赦運動が續けられてゐたので、一八七九年、政府は特にルイ

ズだけを赦したが、ルイズは『パリ・コンミユンの連累者全部を赦すならいゝが、自分だけこの恩典を受けることは出來ない』と云つて拒絶した。しかし、一八八一年に一般特赦があつてルイズは漸くパリに歸つた。

◇

一八八三年、パリの失業者が一大示威運動を敢行した。ルイズはその先頭に立つてゐたが、行列は進行中にパン屋を襲つて往來に投げ出し、失業者の取るがまゝにまかせた。

ルイズはこの主犯として捕はれ、强盜罪の名を以てセイヌの法廷に送られた。同志ロシエフオルは證人として招喚された時、しきりにルイズの潔白を說き、ニユウ・カレドニアに於ける彼女の行狀を引いて人格の崇高なことを述べたが、ルイズはこれを制して『私は辯明しない、好きなやうにするがいゝ』と云つて裁判長に迫つた。

裁判の結果は九年の禁錮であつた。『ルイズを放免せよ』の運動は、同志からだけではなく、一般の輿論となつた。新聞も代議院もこの運動に加つたほどであつた。で、三年後に許されて出獄した。

出獄後の彼女は、益々熱心激烈に運動して政府の壓迫が加はつたので、止むなくイギリスに渡つた。當時イギリスには各國の亡命者が大勢集つてゐたので、それ等の子弟四十人ばかりを收容する小學校を建てた。そして又、あらゆる勞働者の集會に出席して熱辯を振つた。

かくして數年をイギリスに過ごしたのであつたが、フランスの同志ヂロールが來て熱心に佛國勞働者の慘狀を說いて歸國をすゝめた。

この時ルイズはもう七十餘の老齡になつて餘程健康が衰へてゐたが、同志と共にその主義を宣傳するためにフランスへ歸つた。そして、一九〇三年四月、ツーロンに遊說中肺炎にかゝり、翌四月九日マルセイユで死んだのである。

◇

ルイズの七十五年の生涯は、まことに熱と火の生涯であつた。愼重で實際的な、いゝ意味でいふ首領的任務には缺けてゐたかも知らぬが、彼の燃ゆるやうな反抗心、そして是を勞働階級の胸に移して不正不義に對する憤怒の火を燃やさせ、自由の渴仰を鼓吹した點に於ては、彼女こそは代表的な戰士であつた。パリ・コンミユンとパン一揆は、彼女の生涯に於けるほんの一枚の挿畫に過ぎないのである。

しかしこの熱と火の半面は、いや、それよりも更に高調しなければならぬほどのものは、彼女の深い慈愛である。

同志であり友人であつたロシフォルは、彼女が死ぬ二十年前にその生涯の生活を保證し、文豪ユウゴオは、ルイズから自作の詩を送られた返禮に、名著ノオトルダムを送つた縁故で、友人として生活を補助してゐたのであつたが、ルイズはそれを悉く貧しい人達に與へて、自分は常に赤貧のどん底にあつた。この點に就いての彼女の逸話を一つ二つ書いて置かう。

◇

或る冬の夕方、アンフォンソ・モンテルグユとジョルヂ・ミユウジイといふ二人の新聞記者が往來でルイズに逢つた。見るとルイズは薄いぼろ服を着てゐて如何にも寒むさうだつたので、早速洋服屋へつれて行つて何から何まで一切買つてやつた。そしてモンテルグユは『何に、すぐ誰れかに與れてやつてしまふんだらう』と獨言を云つてゐた。

新聞記者は、翌日またルイズの姿を見た。ぼろ服をまとつたルイズの姿を見た。昨日の洋服も靴も帽子も手袋も、モンテルグユの豫想通りに、皆んな人に與れてやつてしまつてゐたのである。

◇

又或る日、モンテルグユがルイズを訪ねた事がある。と、一向見馴れない赤髯の男がシヤツ一枚で料理をしてゐたので、『あれは誰れか』と尋ねた。するとルイズの答へはかうだ『實は私も知らないんです。この寒いのに外に立つてゐたやうだつたが、宅の戸はいつも開つ放しなので、默つてひよつこりと入つて來ました。別に邪魔にもならないのでそのまゝにしてゐます。自分でスープを拵へて、食つてしまふと隅の方で默つて寢てしまひます。』

モンテルグユはその日少し話しがあつて來たので『一寸あの男に外に出てゐて貰ふやうに云つてくれまいか』といふとルイズは『いやそれは困つた私が外へ出ませう』と云つた。こゝにもルイズの面目が現はれてゐた。

◇

ルイズは街から病犬を拾つて來て絶えず數匹づゝも養つてゐたので、友人が不愉快な顏をすると『私だつて嫌やに違ひないが、捨てたら誰れが養ふでせう』と云つてゐた。ニユウ・カレドニアの流罪中にも、宿なし犬はルイズの家を最上の隱れ家としてゐたといふ。

ルイズがフランスの一監獄に在監中、監房に猫と鼠とを養ふことを許されて、この二つの動物を仲よしにさせようとしたといふ話もある。

雜感

らいてう

我が國の婦人政治運動が――いゝえ婦人運動全體がとうに轉換期に來てゐることを深く感じるのは私ばかりではないでせう。所謂小ブルジョアの知識婦人によつて支持され、繼續されて來た婦人自身の個人的立場のみを固守する在來の婦人運動は最早時代にめざめて來た今日の社會婦人たちにとつては子供らしく、力ないものとしか思はれなくなつたばかりか、實際その理論的根據も今日に於ては不滿多きものとなつてしまひました。言ひかへれば明治大正の婦人運動はあまりにも單獨孤立的で、他の社會運動との間に當然もつべき神經や血管の聯絡を缺いた點に行き詰りを來したものと言へるでせう。

ですから今まさに起らねばならぬ筈の新しき婦人運動は更に大きな更に深い共通な理論的基礎を今日の社會運動のそれの中に見出すことによつて同じく被支配者であり、無產者である全女性と無產階級男子とが協力、提携、同じ社會運動の共同戰線に立たねばならぬものであり、又かうしなければ婦人運動それ自身の最初の目的も結局は達成し得られないものだといふことが、すでに明にされました。この點に於て今可成り大きな覺悟が婦人運動者たちの上に必要とされてゐると思ひます。

かういふ考へから、私はこの頃無產政黨の出現についで一部の左傾的知識婦人や勞働婦人の間に新な婦人政治團體創立の企てがあるとき

職業婦人社慰勞會

五月十二日の朝の事である。空は紺碧に晴れて絶好の外出日和、今日は喜しい日曜日、洗濯仕樣か？原稿書こか？それとも友人訪問か？と十字路に迷つてゐるさ中へ、職業婦人社會計主任であろ横綱格のふとつちよの鈴木千代子女史が汗だくだくで私の部屋に駈け込んで來た。

『ヤ、開地君、お早やう、今日は職業婦人社の慰勞會だよ、社長はじめ、父ちやん(奥榮一氏)杏ちやん(奥第一世)紀伊ちやん(その令妹)も、それから平山女史も淺草驛で待つてゐる。淺草驛で一同勢揃ひして堀切の平田のぶ子女史の家へ菖蒲見物さ。

さアさ用意はこれこの通りと……それからお前方の好きなものを松屋で見つくろつて買つてこいと社長さんの御命令、猪一枚ポッポにうなつてるから、安心しな……』と。

素敵な元氣で私をけしかけるので私も喜しくなつて鈴

ゝました時は『時が來た』とひそかな、しかし大きなよろこびと期待に私の胸は高まるやうでした。しかしそれは只一回の發起人會が某所で開かれたきり、其後久しく消息を絶つてゐましたので、終にまとまらなかつたものかと殘念に思つて居ましたら、最近又同じ企てが進行しつゝあることを傳へられました。最初の發起人會以來、數月その間にどんな複雜な曲折があつてかうも創立が長びいてゐたのか全然局外の私の想像の限りではありませんが、何はともあれ何人かの創立準備委員諸氏の御骨折りによつて、昭和時代の婦人運動として、我が婦人解放史上にほんとうに劃期的な一つの時代をつくるやうな在來の婦人政治團體とはその立場も社會的自覺の程度も異つた全然新な、力強い婦人團體の結成を近き日に見るであらうことを、この國の全女性の一人として私もまた祈らずにはゐられません。

この婦人同盟（かう呼ばれてゐます）はその創立に先き立つて左の六つの要求を擧げてゐます。

一、治警第五條即時撤廢。二、男女不平等法律撤廢。三、兒童及母性に關する諸法案設置四、婦人參政權。五、婦人深夜業勞働坑內勞働禁止及び寄宿舍制度の撤廢。六、男女不平等賃銀制撤廢。

そして是等は各無產政黨がきそつて揭げた婦人に關する諸政策とほゞ共通なもので婦人同盟創立の曉には無論是等の諸運動は無產政黨との提携によつてなされるに相違なく、又かゝる婦人團體との提携は無產政黨それ自身の立場からも望ましいことなのに相違ありません。この點に於ては既に創立の背後にいづれかの無產政黨の若しくはいづれかの無產政黨を支持する男子の手がのべられてゐるのではないかといふやうな憶測さへめぐらす餘地がないでもありません。

しかしこの新に生れるであらう婦人團體が、

木女史の大きなお尻につゝて家を出る。何がさて日曜日に絕好の快晴と云ふハンデキヤブ付だもの、電車內の混雜は實にお話にならぬ鈴木女史はお土產が重いとべソを搔く。扨て淺草驛に着いて見ると社長さん一家を始め、平山文子女史も姿を見せぬ。一時間半も淺草驛で待つてゐたらうか。鈴木女史はベンチで高いびきだし、私は朝食をしてゐないから腹ペコ＝待たれるとも待つ身になるな』と鈴木女史が夢から醒めてつぶやく頃ヤツト社長サンの一族がやつて來た。

平田女史の家へは鐘ケ淵で下車すればいゝと社長さんが云ふから、私達は何も知らぬ、社長に連れられて葛蒲見物だ、仰せかしこまつて社長サンについて鐘ケ淵で下車すると、案內係の社長サン、キヨロキヨロして、どうも道が違ふ、乘合自動車もある筈だのに、と大騷ぎ、改札係の車掌サンに鬪くと＝乘合自動車のある所は次驛の堀切ですよ』との答、社長サンが一寸頭に錯誤を起してあんなに繁げ〳〵と通ひなれてゐる筈

いづれの政黨を選擇するにせよ、彼女がいつもその本來の目的と婦人自身の立場とをしつかりと握つて、この點から彼を監視し、批判し、刺戟しつゝ手を携へて進むことに十分用意周到であり、賢明でさへあればそれでいゝので、私は特に豫めこの點を望んで置きたいと思ひます。

（二、六、一二）

婦人同盟の掲ぐる綱領

全婦人の利益擁護と政治的自由獲得のために！

◆無料産院の設置、産前産後の休養

◆安心して子供が育てられる兒童保護法の獲得

◆婦人の深夜業、坑內勞働禁止及び寄宿舍制度改正

◆同じに働いても女だけ廉くする男女不平等賃銀撤廢

◆公娼制度撤廢、前借年期制度禁止

◆敎育の機會均等

◆婦人を無能力者扱ひにする不平等法律の撤廢

◆婦人參政權、政黨組織或ひは加入の自由獲得

◆家庭に於ける封建的束縛よりの解放

の別宅の在りかを忘れて一つ手前の驛でゾロゾロ私達を下車さしたものだからたまらねヱ。堀切の驛を出離れると見渡すかぎり賑々した河の流れ、五丁もある長い橋が菖蒲園へ遊びにゆく人で蜒々と長蛇の陣をつくつてゐる。

初夏のみどり色の風に吹かれ乍ら一同が平田女史の家に辿りつくと、平田女史喜ぶの喜ばないのつたら、顏の相好をくづして喜んで出て來てまアまアヤア…大勢連れで、と二の句がつげぬ。何しろ社長奥女史とその一黨だもの大騒ぎをしてヤツト晝食が終つた所へ、『まアお腹がすいてたまらない。だつて道がわからなかつたのだもの』とかけ込んで來たのが、美しい平山文子女史だ。

一黨更に色彩を加へて讃美歌やら寐雨やら勢を限りに唄うてゐる中で、社長さんだけは悠々閑日月のグウグウグウ話はこれから大いに佳境に入るのですが惜しい事に頁がない。發賣禁止切‐ならぬうちに、此邊で上げておきませう。（敏子）

六月十三日――偶然の消費組合デー

七月第一土曜の國際消費組合デーを祝ふために、わが關東消費組合聯盟でもわが國最初の宣傳デーを催すことになつて、その届出やら打合せやらを兼ねて警視廳に出向いた。理事長の廣田金一氏と、理事笠原千鶴氏と私と三人。

それから愛宕署へと出向く途中、協調會に立寄つて晝食をとらうといふ事になつて入りかけたら、其出入口のまん中に神戸消費組合長の福井捨一氏と協調會の消費組合研究家長岡保太郎氏とが立ち話をしてゐられる。お互ひにまあ〳〵、といふ事になつてつれ立つて食堂に入つた。そこへあとから更に加つてみえたのがこれも「英國の婦人ギルドの活動」その他の論文でおなじみの村山重忠氏である。偶然の好意が作つて與れたこの消費組合デーを心に祝ひながら、話は次から次へと消費組合運動を中心にして續けられてゆく。

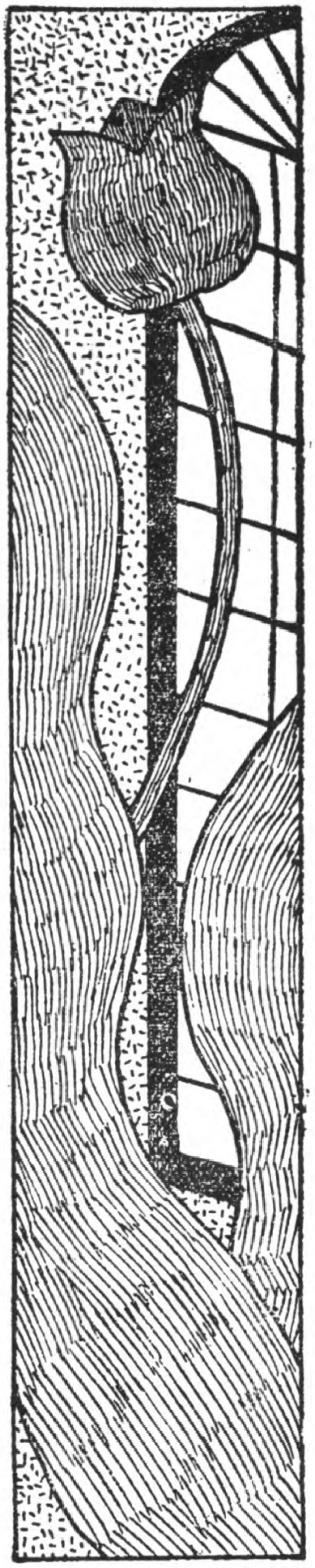
神戸の家庭會――消費組合の婦人部――は現在會員三百人餘ある。組合員の勸誘は今日では殆んどみなこの婦人會員に依つてなされてゐると云つていゝといふ事である。福井氏の言を藉りていへば「神戸の消費組合では、家庭會サマ樣です」といふのである。去年からは兵庫縣廳の委囑で授産事業も行ひ、婦人會員が何から何まで責任を負うて取計つて進めてゆくので、非常に評判がいゝと云ふ事でもあつた。

福井氏は繰返し〳〵て、家庭の婦人を消費組合の運動の方に引張つて來なくなつては結局駄目ですよ、と云つて關東消費組合の婦人部を勵まして下さつた。

廣田氏は、興業銀行が、細民の血と脂汗の貯へから積み立てられた金子で出來てゐる低利資金を、少しも細民の生活をよくするための仕事には使用されないで、(名目は、そのための低利資金だとなつてゐるにも拘らず)基礎の大きな產業組合などに幾萬といふ額でどし〳〵低利に貸し出されて、その金子は寢かされたまゝ唯、利潤を儲けるだけの用途に使はれてゐる。而も自分たちが借りやうとすれば、抵當があるかとか、電話の名義を書きかへて抵當にせよとか、不當のことを云ひ張つて、結局要求した額の幾分の一しか貸出さうとしないといふ事に就いていろ〳〵と事實に就いて興味深い話をしてゐられた。(むめお)

取止めのない感想

新居格



夏が來れば夏の裝ひ、夏にふさわしい空想、そんなことだけを考へても居れる婦人達がまだいくらでもゐるらしいのだ。だから、海水着の色合が新聞の婦人欄に書き立てられたりするのだ。相變らずの通俗小説が譯もなく婦人達に讀まれ、相變らずに低劣な婦人雜誌が賣れて行く。お料理の話梅雨時の攝生、虫干しの心得、どんな夫をまたどんな妻を選らぶべきか何の秘訣はどう、私はどうして逆境を切り抜けて、どうして今の幸福をかち得たか……何と云ふ蒸し暑い記事だらけの婦人雜誌が賣れて、相も變らずに蒸々した生活が續いて行く世の中だらう。それは火山灰の降つた跡の道が雨に濡れたやうな不愉快さにも譬へられやう。すつきりした感情が何處にあると云ふのだ。さわやかな微風さへがなさそうな沈滯だ。

私は旅をした。旅をしてつとめて見聞しやうとした。略、同じやうな生活が何處の町にも村にも開展されてゐるのを見知る以外ではありえなかつた。たゞ、大都會ほど珍奇な色彩が多いと云ふだけのやうに思はれた。具體的に云へば、『主婦の友』とか、『婦女界』、『婦人の友』とか云つた雜誌の讀者らしい顔がどこにも多いやうに思はれてならなかつた。――そ

れ以上に高級に突き出てもゐない。それ以外に眞實な生活感を抱き締めて考へて居そうに見える顏が少ないやうに思へたことだ。と云ふことは思ひ切つて、すばぬけて、熱情的に因襲を驅散らかせと考へてゐそうな女性達と、勞働の原理と社會的合理性とをどこまでも自分の生活の基準にしようとするしつかりした女達の少なそうなことだつた。

　生活が生活である限り、男も女も口や筆だけでは鳥渡自由で因襲に拘泥しないやうなことを表現するにしても、さてその人の生活自體に立ち至ると、とても角度が鈍いのだ。そうしたことは少しく注意してゐるとすぐ分かる。今世間で、さらにハツキリ云へば新聞や雜誌で名士にされてゐる男女特に新しい意味で名士にされてゐる人達の生活に就いて考察してみるがいゝ。如何にくだらない世間がくだらないと思つていゝ人達を物の見事に尊敬してゐることか。微温湯の程度の柔らかさで調子よくやつてゐる人間が一番持てるのはそのためだ。尖端を鋭くすればするほど、それが眞劍ですればするほど毛嫌らひされるべき筈である。世間だ。けれど茹玉子のやうな軽るい風味の名士達はわたしにはもう堪へられないやうな氣がする。

何と言つてもみんなは道徳家だ。少くとも、今の世間にだつて通用する道徳家だ。でないまでもそんな風に見せかけだけは忘れては居ないやうだ。いゝ心掛だと思ふ。

　高群逸枝さんのやうな人だつてあの人はアナキズムの思想に相當の理解をもつてゐるらしい人だのに、最近の彼女が『よみうり』で書いた文章『あまりに本能的な？』は題目そのものから既に變だが、その立論があまりにも既成觀念的な囚はれが出てゐたのを發見して私はわびしく思つた。

　男も男だし、女も女だし……と言つた感慨が近頃の私にはどうしたものか強からざるを得なくなつた。賀川豐彦君あたりが理想的人物として通る今の世間に、あゝまた何をか言はんやの感がある。

　私はクララ・バウの『人罠』と言ふ活動寫眞を見てから、彼女が好きになつた。あゝした女を單にフラツパアと言ふのでは物足らない。私はフラツパアと言ふ文字がすきではない明朗で清爽で囚はれなきその行動を讚する。既成觀念に首鼠兩端を持する人間の多いのに全く私はうんざりさせらてゐるからだ。しかし、そんなのが今の世間だ。それがこの國許りでなく、世界を通じてそうなのだ。全世界の人間はまだ人間心

の進化の程度から言へば極めて初期に屬すべき問題に勞心してゐるやうである。そんな時代には誠しやかなことを嘘にしろ喋べつてゐるがいゝ。そんな時代にはほんとの言葉は悪にも見える。生溫る空氣のなかで折角いゝ氣になつてまどろんでゐるのを邪魔してはいけない。いゝ氣持で眠むつてゐるのを急に起こされては誰しも不機嫌になるでもあらう。とり分け、パラドツクスを知らず、ユーモアを解しない人間と來ちや全く始末が悪るい。言葉の意味、表面だけでしか解釋の出來ない人達に逢つては叶はない。私は今そんな風の感想を强く持つてゐる。

と言つて、私はちつとも憤慨なんかはしない。誰も攻めはしない。攻める資格は誰にもありはしない。私は芝居なら大入場、活動寫眞館なら普通席の片隅に立つて、この通俗小説みたいに詰まらない今の世間とそこに登場する人氣役者達を見てゐるだけである。ひそかに願ふところは通俗小説みたいな人生がなくなれと言ふだけのことである。

私の最近は殆ど言ふべき何ものをも持つてゐない。强いて言へばなまなことを言ふより外はない。で、私はこれだけで止める。

北海道宗谷線に沿ふた一帶の土地は、日本切つてのジヤガ芋の産地であるが、ジヤガ芋の價が安い時にはこの地方では、殆んど一齊にそのジヤガ芋をそのまゝ畑の中で腐らせてしまふ。何年目かごとにかうして莫大な高に上るジヤガ芋の富が畑の中で破毀されるのである。

これは社會的立場から見ては、實におどろくべき不合理である、が今日の資本主義治下に於けるジヤガ芋の生産者としては當然である。彼等としてみれば、今年割りにあはない手間をかけて市場に出して損をしてまで安く賣るよりは、今年は供給をなくして來年高く賣つた方が結局得なのである。

——石川準十郎——

駒澤町より

榎本八十子

毎度御本の御送附を頂き誠にかたじけなく拜見して居ります。その都度、この頃のわたくしの不勉強をお恥しく思つて居ります。

今年は梅雨に入つてからも天候は誠に順調で、田圃の水もなくなりそろそろ水を引かねばと思ふ頃に雨が降り、畑の作物にも水氣の欲しくなる頃に一日一晩位の雨があるので、どの位ありがたいことかと思ひます。

今日も土に、草に、樹々に、泌々と降り注ぐ雨の音を聞くことが出來ました。

他家のどの家よりも早い小麥の刈り入れも半分になつて、いつもの老母の烈しい憂欝が幾分和らげられて來たのを、わたくし自身も心に吻としながら、久しぶりで筆を持つ氣になりました。息をつく隙も惜しい程な、慌しいごみごみした日許り續くので、人の心までが妙に荒くれてゐる時に、じれじれし乍らも雨の日は落ちつきます。それに、今日の雨を悦ぶわたくしの心持は、自分の爲にのみではないのでございます。

わたくしの家の前の家の嫁さんが、赤ちやんに乳房を喰ひつかれて、痛い痛いと惱み乍らも野良の仕事の忙しいのに追はれて手當もしずにゐたので、だんだん腫れ出しました。それだのに、醫者に診て貰ふことを迷信的に怖れるこの土地の人達は、嫁さんが食事もとらずにつくねんと乳房を押へる頃になつてから、これは大變だ、何か憑物がしたのだと云つて行者に見て貰つたのでした。そして、その行者から貰つた得體の知れない膏藥を貼つてゐたのですが、遂々切開をするやうになつたので、東京へ出かけて兩方の乳房を切開して來ま

した。魔藥をかけられて、覺めた後のふら〳〵した體をやつとのろい市電から玉川電車に乘つて、半死になつて歸つて來るなり、倒れるやうに床に就いてしまひました。

　が、胡瓜、夏大根、馬鈴薯、それらの荷出しが忙しく、田の草とり、皮麥のこなし、そんな仕事が壓し被さるやうに家の中を掻き亂してゐるので、姑さんや小姑さんが當てつけにぶつ〳〵喚くので、嫁さんは寢てもゐられないのです。それでふらふらと、土間を影のやうに這ひ廻つてかいしきをやつてゐるのですが、昨日の夕方、わたくしの耳に、ふと嫁さんの啜り泣きが、乳のない赤ちゃんの泣き聲に交つて聞えて來たのです。それで、今日のやうな雨の日には、少しは氣持も落ち付いて疊の上に坐つてゐられるだらうと思つたからです。

　隣の嫁さんは、わたくしが、洗濯をしようとして井戸端に出ました時、いつになく綺麗に髮を結ひ上げた後で、ぐんなりとして横坐りにしてゐるので、變だなと思つてゐましたら老母が、隣の姑さんに聞いて來たことに、

　嫁さんは昨夜、三月で流産したのださうです。嫁さんが、たまに目刺しの二束位買つてもがなりつく姑さんは、嫁があんまり大根下ろし許り食ふからだと怒つてゐますが、それよりも想像もつかないやうな過激な勞働が、二度目の流産をさせたのです。それだのに嫁さんは、念の爲に醫者に診て貰つてから、又、畑へ出て行きました。――西瓜のから引きだから樂な仕事だもの、出來なくてさ――と姑さんは孫を負ひ乍ら嫁さんの後ろ姿に浴びせました。疊の上に、晝日中ながながと寢ることを、斯う云ふ人達はどんなにそれが苦るしい體の休めであつても、羨み、罵り、怖れてゐるのです。自分達の過去の日を思ふと、嫁に許り自由なくらしは與へないぞといつた嚴な威壓的な態度でもつて、何處の姑さんも至つて健康に、この頃の嫁さん達の意氣地なしを罵り合つてゐます。

　隣の嫁さんも、今日の雨には感謝してゐるだらうと思ふのです。それとも、姑さんのひかひかした眼を怖れて、繩ないの藁打でもやつてゐるのかも知れません。どんと地面を傳つてとんこの音が聞えて來ます。それとも氣の故でせうか。前の家では赤ちゃんが、どうしてもミルクを飲まないと云つて姑さんのわめく聲が、雨の樹立を縫つて聞えて來ました。

　わたくしは、老母が土間で、ばりばりと小麥をこく音を聞き乍ら、子供に邪魔されながら、それでも之だけ文句を續けて參りました。

兎に角、只今は、何處を向いても、汗みどろになつて働きぬいてゐる人達許りですから、自身で、自身の體を泌み泌みいとふ隙もございません。

健康で働くこと程、望ましいことはございません、と共に、百姓は、健康な天候をも祈つてゐるのでございます。

奥むめお様、

大變失禮なことのみ申上げました。絶へず熱烈な御活動を續けてゐらつしやいます奥様の御力に感謝してゐるわたくしも、決して無意義な日を過しては居らないといふことを、吹聽させて頂きました。邪氣のない心をお吸みとり下さませ。

▽婦人界近事▲

全國小學校女敎員大會より金百圓也、職業婦人社へ

さき頃神戸に開催せられた女敎員大會より金百圓也を、わが職業婦人社の事業資金として寄附があつた。『職業婦人の家』の建設のための最初の寄附金が、かくの如き意義多いところから與へられたことは感謝に堪へない。

●●●●●●●●**女工解放を全國に宣傳**

日本勞働組合同盟所屬日本紡織勞働組合では先日來東京府下東洋モスリン會社龜戸工場で爭議を起し六ヶ條の要求をしてゐたが去る五月三十日六項中三項を容認して、漸く解決したその項目中「女工の外出自由」なる一項があり、會社側ではこれは全國八十萬人の女工に關する重大問題なりとして容れなかつたが遂に讓歩した。此の問題は今迄各地の紡織會社爭議の起る都度持だされた問題で、今日まで、遂に實現を見なかつた者である。しかも東洋モスが六月一日からの實施成績に見ろに風數上に於ても良結果を得、外出は却つて減ずるなどの珍現象を呈して居るので、前記勞働組合にては是を全國的活動に移すべく運動して居ると。

●●●●●●●**愛婦の母子收容所**●

職業婦人や落つく先のない哀れな婦人達のために本所區愛婦隣保館ではその宿泊や仕事先きの周旋までやつてゐたが今度百坪三階建ての新裝した託兒所をかれた宿泊所が六月下旬には出來上るので之と同時に乳呑子をかゝへて途方に暮れてゐる婦人のために母子收容所を併せて七月から開く豫定であると。

●●●●●●●**佛敎婦人會館建設**

かれて企畫中だつた築地本願寺經營の佛敎婦人會館はいよ／＼市外省線荻窪驛に近くに設立する事に決定、五百坪の敷地も既に地ならし工事を終へ、今夏中に建築工事に取りかかる筈で、同館は敎化傳道の用に使用さるゝは勿論だが不良少女收容所「六華園」もこゝに移し豫て職業婦人の「憩ひの家」ともなす計畫で、十二日正午から築地同寺において厳修された眞宗婦人會の總會席上九條武子會長がその内容を發表した。

●●●●●●●**關東消費組合の婦人部設置**

關東消費組合聯盟は漸次その基礎を確立し組合員約五千人に達し今や無產階級解放運動の一翼としても有力に認めらるゝ事になつたので此際婦人部を設置して事業を進展するに決し去る五日の第六回大會に附議したが男子代議員より婦人部委員に無產階級的意識ありや脇道に外れる虞れなきやの質問續出したるに對し、新たに加盟せる奥むめお氏より『消費組合運動を通じて婦人大衆を無產階級戰線に惹きつけて行くのが婦人部の使命である』と强調し婦人部の設立を滿場一致承認した。因に本年度は物資配給に基く同組合の利益は一萬餘圓で純益は約千五百圓であつたと。

珍聞記事雜感

開地敏子

私は時々面白い新聞記事を見る、新聞記事の事だから、私より他に澤山それを讀んで居られるお方も御座らうが、讀まれない方もあらう。眉の凝らないアクビ止めが、『婦人運動』誌上に一つ位あつてよさそうだから、その短評を三つ四つ書いて夏の眞晝の眠け醒し、一服の淸涼劑として腹を抱えて頂くことにする。

○法廷化粧料十弗

これはアメリカのブルツクリン法廷での話。

法廷は天皇―神―の御名によつて裁きをなす最も神聖嚴肅なる場所である。

ところが場所もあらうにその神聖なる法廷で傍聽人のモダーンガール孃が頻りに鏡を出してお化粧をやり初めたその無禮な振舞に憤慨したのが裁判長のブラオン君である。眞赤になり乍ら『法廷は化粧院ではない。こゝで化粧する婦人は十弗の罰金に處す』と即決判決をやつたと云ふのである。

いづくも同じモダーンガール孃の生命は化粧の只一途あるのみらしい。櫻咲く大和の國でも、ところかまわずコンパクトの蓋を開けて、人目かまわず白い粉や赤い粉を低い鼻に叩きつける御婦人をあまり多く私は見掛ける、無敎育な女なら兎に角、相當な敎育ある淑女までが眞似るのだからやりきれない。

化粧直しなどは人に見えぬ御不淨場などでソツトやるべきものぢやなからうか!! それ故にこそ御不淨場のことを化粧室トイレツトルーム＝と書いてある筈だ。

だから我國でも一つ警察犯處罰令中に左の一項を加へたら什うか?

一、濫リニ他人ノ面前ニ於テ化粧スルモノハ一圓以上二十圓未滿ノ科料ニ處ス

前項ノ罪ハ證人ノ告訴ヲ待テ之ヲ論ズ

證人惡意ヲモツテナシタル告訴ハ其效ナシ。

てな事になると、モダーンガール孃大恐慌を來すことであらうが、多少風紀取締には效果がありそうだ。とは私の妙案。

○色魔取締法案

色魔の定義は什うつけたらよいか一寸私にはむづかしい事だが、アメリカのネブラカス州の上院議員で四十年間も辯護士稼業をやつてゐるジョン・ダブリユークーパと云ふ人は、同州の議會へ今回色魔取締法案なるものを提出して目下非常に評判になつてゐるそうである。

ところが今より二年前西暦千九百二十五年にも、やはり同氏は同法案を上院に提出したこ　があつて其際には、上院を二　票對一〇票で通過したが、閉會間際だつたので下院は遂に審議未了に終つたのであるから、今年は通過疑ひなしと太鼓の樣な印を押してゐると云ふのだから面白い。其內容を聞くに、此法案は勿論男女平等に適用さるべきもので、

『他人ノ妻ヲ誘惑シタ男、若シクハ他人ノ夫ト關係シタ女ハ千弗乃至二千五百弗ノ罰金並ニ一年乃至五年ノ懲役ニ處ス』

と云ふことになつてゐるそうだから、ネブラカス州で姦通した者は男女に不拘此刑罰法規で强制處分を受けることになるのだ。

一寸他人の妻や夫に手が出せない。

　我國でも刑法上に於ける姦通問題は男女の差別待遇の甚しきものとして、大分識者間に問題になつてゐるのであつて、その改良意見として、一は姦通を法律の制裁の範圍外に置き、只道德上の私制裁に任せやうと云ふ說と、姦通を嚴罰に處し男女を同一に罰しては什うかと云ふのである。この問題はどこかの婦人雜誌が批判會をやつた筈である。

　いづれも一得一失があらうけれど、婦人なるが故に特に貞操を重く義務づけらるゝことは什うか‼（婦人に特に貞操を重くするのは我家族制度と私有財産制度に因を發す）

　貞操は義務であつてはならない、とすると、その答は？？？

○一夫多妻運動

　一夫一妻は文明國の理想的結婚である。所が海の向ふの文明國歐洲では此の頃一夫多妻運動と云ふ婦人運動が發生し始めた。

　これは最近巴里、倫敦から紐育に歸つた海軍中佐フイリツプ・グリーン氏の歸米談であるから眉つばものぢやあるまい。

　そもそも此一夫多妻運動の本部なるものは巴里、倫敦、ブラツセル、伯林と云ふ一流の首都に置かれ、驚くべき多數の婦人が此團體に加名し、對議會運動として要求實現のために整然たる團體組織をなしてゐるそうだ。

　一寸聞くと時代錯誤の婦人運動とも見られ樣が、其處には大きな自然の力が動いてゐることを見逃すことは出來ない。

　即ち此一夫多妻運動の發生原因たるや其端を歐洲の一戰亂に發するのであつて、戰爭の爲に多數の男性が死亡し、婦人の數が恐ろしく男子の數を越過した關係上一夫一妻を理想にしてゐては、多くの婦人は夫を得る機會を失ひ、一生不幸な寂寞な生活を送らねばならぬと云ふのである、誠に同情すべき理由ではないか。

　これぢや一夫多妻の原始に還元するとも仕方がないことかも知れない。

　ところで我國は什うか！　我國では資本主義極度の發達の結果、勤勞階級は資本家の搾取により追々家族扶養の能力を失ひ、多くの婦女子は資本家の玩弄物に甘じ、下層階級の男子は結婚難に呻吟しなくちやならぬ時代になつて來た。

『貧乏な男の妻なんかになるよりも、ブルヂョアのお妾になるわ』てのがモダーンガール諸孃の異句同音である。

　貧乏な男は妻にありつけない、故に歐米の一夫多妻運動に對抗して、一婦多夫承認運動が男子側から起りそうな勢だ。曰く『僕は彼女に色男の二三人位あつてもよいさ、僕の生活を保證して吳れゝばねエ』これが大學出のモダーンボーイの類似句である。

　此處に於て、私はインターナショナル男女融通同盟と云ふ樣なものが早晚構成され樣と思ふ。

　すると忽ち特別國際私法と云ふ法律が必要になつて來る。私は一生懸命に勉強してそれまでに婦人辯護士にパスして、國際的男女融通法案の起草委員になり、婦人の爲に萬丈の氣焰を吐くつもりである。

職業婦人社の基礎擴充のために

協力せよ！
支持せよ！
應援せよ！

職業婦人社では第六年を迎へるけふ礎はやうやく成つたと信ぜられるので、次の如き三つの積極的な計畫を樹てゝその仕事を進める事にした。一つには仕事の基礎を確固にするために、二つには事業の擴張に依つて今日の社會が最も私たちに要求してゐると信ぜられるところの仕事を一つづゝ進めて行くためにである。三つの計畫とは、

一、月刊雜誌『婦人運動』の基礎擴充
- 編輯方針の改善
- 購讀者の三倍加
- 賛助員百人案

二、財團法人『職業婦人の家』の建設
- 婦人娯樂休憩室
- 圖書室
- 婦人講座講習會室
- 共同炊事場
- 共同洗濯所
- 簡易宿泊室
- 事務室

三、代理部の創設

一はこれまで續けて行つてゐることの擴充であり、二と三は新しい企てである。然しながら、職業婦人社が今日までになめて來た苦勞のどんなに深く大きいものであつたかを思ふとき、今後さらに大きい困難がもつと屢々私たちの前途を阻むことであらうと考へられるのであるが、然し、今日までかくも微力なる私たちを援けて働かしつゞけて呉れた讀者、賛助員その他私たちの働きを必要とする社會全般の大きな加護を信ずる私たちは、今更らに力が三倍し四倍するのを覺えるのである。

私たちは今後一層の熱く強い心添へを職業婦人社の仕事の上に念じてやまない。

「婦人運動」

雜誌の購讀者の三倍加のための依賴狀はすでにそれ〴〵を發送させた。一人の讀者が二人の新讀者を紹介せられるならば立ち所に我が購讀者名簿を三倍にすることが出來る！自分

たちのまわりで二人の讀者を勸誘するといふ事はさう六ケしいことであるだらうか。編輯方針については、これからこそと覺悟をきめていろ〳〵樹てたプランがある。いゝ雜誌を作ることに依つて、廣く讀者を全國に求めたいと希つてゐる。遍へに、購讀者諸姉の助力を仰ぎたい。贊助員は、月額一口一圓、一口以上を一ケ年契約で引うけて貰つて維持費の一部に充てるのである。『職業婦人の家』が出來上つてしまふまで經濟的困難はこれまでよりももつと甚からうと思はれるのでさしあたり百人の贊助員を作つて確實な收入の道を增したいと思つてゐるのである。

申込みのあり次第、用紙は送るが、振替用紙に依つて贊助員申込み及び會費を送金されるのに差支は毛頭ない。あなたのまわりで一人でも、二人でも職業婦人社のために贊助員になつて頂けさうな人を物色して直接交涉又は、紹介をしてほしい。

『職業婦人の家』

この『家』に含むものは、前記の通りで、その併設として次の二つを持つ。

併設〔婦人職業相談所・調査部〕

建設の趣意

今や職業を求める婦人の數は益々多く未婚と云はず既婚といはず、多くの婦人が職業の問題、家庭の問題結婚の問題等にからまる大きな混亂の渦の上に歸着する所を知らず惱み苦しんでゐる狀態である。

而もこの狀勢に際して未だ職業婦人のための何の施設も行はれず、適當なる指導誘掖の任にあたる人も殆んどないまゝに今日に及んでゐるといふ事は心あるものゝ寒心に堪へない所である。殊に現在の職業婦人の過半數(東京に於ける)は父母の膝下を離れて下宿生活にあるもの、一日の勞務を終えて歸つて來ても薄暗い五燭の電灯がぽつつりと點つてゐるばかりでそこには何の慰めもないやうな淋しく賴りない生活を續けてゐる者が非常に多いことを思ふ時、まづ心附いた者が手を着けてこれを行ふのが當然といふよりも、義務であるのではあるまいか。薄力をも顧みず私たちが今この仕事を思ひ立つたのも、實にこの心からに外ならない。

『家』の內容

『家』は

- 木造二階建て
- 建坪　七〇坪
- 利用坪數　五八坪
- 建設總費　五、〇〇〇圓
- 設備費　二、〇〇〇圓

——全額特志家の寄附に依る豫定

一、娯樂休憩のための靜かで快よい部屋と相當の設備、二、圖書雜誌新聞類の閲覽室、三、婦人のための各種講習會婦人講座、協議會、研究會等のために使用する廣間、四、科學的文化的に設備整ひたる共同炊事場、五、及び同樣の共同洗濯場六、簡易宿泊に必要なる備へつけ、七、食堂、八、應接室、九、事務室、十、貸室用の幾室を有するのである。併設する婦人職業相談所は、關東大震炎以來ずつと取扱つてゐるのであるが、今度顧問辯護士に東京女子大學敎授片山哲氏を煩はした。經濟的基礎を確固にして、從來よりももつと積極的に頼より少ない職業婦人勞働婦人のために力となり、勵ましともなる樣に、又常に婦人の味方として輿論喚起、破邪顯正に盡したいと思つてゐる。

簡易宿泊室は相談所の仕事に附隨するもので、失業婦人、求職婦人一時の宿に困つてゐる婦人等のために準備するものである。從來さういふ婦人たちのために取次いでゐた圖書パンフレツト等の出版物の委託販賣、飜譯、タイプライチング、原稿筆寫、臨時手傳ひ、仕立物等の內職の仕事も出來る範圍內で取扱ふ必要があらうと考へられる。

調査部は、職業婦人（一般家庭婦人）の生活に關する各方面の實地調査を常に行つて、相談所の仕事と相俟つて職業婦人社の活動に便する役目を果すものである。

貸室は『職業婦人の家』の維持費の一部にあてるために比較的低廉に內三十坪を賃貸しする計畫である。然し經濟的事情の許す限り、更に有用なる他の仕事のために『家』の全部を職業婦人社に於て使用したいと思つてゐる。

維持及び運用費

『職業婦人の家』に依る收入が、會費（この家を利用する者を全部會員組織に依つて得るもの）と各種講習會講座等の會場費及び貸室料であるのに反して、その支出は、管理費、地代、娯樂設備費、圖書新聞購入費、相談所費、宿泊者費、調査費、保險掛金、臨時費等各種に亘つて少なからぬ額に上る。

これは云までもない事であるが、今日の社會に於て仕事をしようと思ふには如何なる場合にもその資源を無視して進展

を望むことは出來ない。職業婦人社がその事業を根底づけ且つこれを發展させてゆくためにはまづこの仕事の經營上に必要な資源を確實にして、繼續及び增大性の十分にあるところに据ゑなければならぬと思ふのである。その具體案として、

雜誌『婦人運動』の基礎擴充と代理部の創設

があるのである。但、代理部の開始はなほ暫く後日にゆづつて、さしあたり『家』の建設及び雜誌の基礎擴充の方に集注したいと思つてゐる。

なほ『家』建設のための寄附金は一般に募りたい。金額の多寡をとはず、この仕事の礎のかためとして一塊の力を投じてほしいと思ふ。

『家』建設のための贊助員

職業婦人社の仕事に對して常に過分の好意と勵ましとを下さつて來た左の贊助員諸氏は、今度の新しい企て『職業婦人の家』の建設についても絕えず精神的にも經濟的にも力を添へて下さることを快諾された。

――アイウエオ順――

安部磯雄氏　淺利順四郎氏
麻生正藏氏　稻宮又吉氏
犬丸徹三氏　石井滿氏
小笠原譽至夫氏　恩田和子氏
片山哲氏　菊地寬氏
久布白落實氏　下田將美氏
下中彌三郎氏　鈴木秀三郎氏
角源泉氏　鈴木小松氏
添田敬一郎氏　田澤義鋪氏
千葉龜雄氏　永井亨氏
野口援太郎氏　長谷川如是閑氏
平塚明氏　星野錫氏
松田義雄氏　宮田修氏
三宅花圃氏　與謝野晶子氏
吉岡彌生氏

職業婦人社

伊福部敬子
奥むめお
大友千惠子
開地敏子
鈴木千代子
平山文子
松浦みつ子
宮本冬子

編輯室にて

近頃毎月のやうに雜誌の出來上るのがおくれて申しわけがありません。毎月今度こそと思うて相當に心構へをするのですけれど、全くニッチもサッチも動きがとれなくなつてペンが進まず、一日一日とおくれてしまひます。然し、

發行日の遲延もいよ〳〵今月限り、と思召して下さい。いよ〳〵購讀者の三倍加運動にも入つたし、「職業婦人の家」建設のための準備にも就きましたので、人手の案配もうまくゆきつゝあるのです。專門に編輯の方の手傳ひをして貰ふ人も決めましたから、これからこそ大丈夫です。

購讀者三倍加のために續々と御加盟を下さつてありがたう存じます。所期の目的に達するのももうあいがなる事でせう。あと一息の處どうぞ皆さん、わが「婦人運動」のために骨を折つて下さい。

あちこちでこの雜誌の存在が注目されるやうになつたので、働くにも骨折り甲斐がありま す。「婦人運動」を通してかくれたる婦人の才能を世に紹介したり、散り〳〵になつてゐる婦人の力を一つに纏めて世に生かしたりする機緣を作ることは、私たちの身にすぎた光榮なる仕事です。

例月よりも薄いまゝで編輯をしめ切ることにしたあとで、輕い悔いと淋しみが滓のやうに心の底に殘りました。あんまり毎月おそくなるものだから、すつかりあてにしてゐたあと一つの×氏の原稿を打切りにしてしまつたのです。それに最後のどたん場でムリな走り書きをする苦しさにも私自身は堪られないので、すつかり諦めることにしました。

今日は朝から靜かな雨が降つてゐて、こんな氣ぜわな仕事におはれてゐるのが惜しいやうな日です。

さあ、又照りつけるやうな暑い日がやつてまゐりませう。お大事になさい。

――(む)――

◇誌代はすべて前納にして下さい

前納誌代

壹部	貳拾五錢（郵稅五厘）
半年分	壹圓四拾錢
壹年分	貳圓八拾錢

送金法

送金は振替が一番便利です。誌代の受取證は別に出しません。雜誌發送を以てこれに代へます。

昭和二年六月廿五日納本
昭和二年七月八日發行

發行編輯兼印刷者　東京市外中野町園三二四四　奥むめお
印刷所　東京市小石川區西古川町二五　中外印刷株式會社
發行所　東京市芝區愛宕下町二ノ三　職業婦人社
振替東京六四一六〇番

新使命の讀者大優待

＝尾崎咢堂先生の揮毫進呈＝

憲政の神様、偉人、咢堂先生の書は、眞に先生に私淑するもの又は、先生の純正なる思想に共鳴するものだけに限つて之を配付したい。普通の書畫骨董品として扱ひたくない。此趣旨に基き、咢堂會支部を通じて、先生の活動費中へ金參拾圓以上を寄附されし御方、又は、新使命の創刊號以來、昭和五年九月迄（貳拾七圓）の購讀料前納者及び、左の方々に限り、先生の揮毫を請ふて贈呈する事に致しました。

但し文字の大小長短、字句其他の御註文等には一切應じません。

1. 尾崎全集（全十卷）五十圓　一部以上購入されし方へ
2. 筆と舌　定價一圓八十錢
3. 政戰餘業（第一輯）　同（第二輯）　定價各々一圓五十錢　（2.3.）二十部以上購入されし方へ
4. 政治讀本　婦人讀本　咢堂漫筆　定價各々一圓　の内何れにても三十部以上購入されし方へ
5. 立憲勤王論　幕末史の再演　定價各々三十錢　百部以上購入されし方へ
6. 普選の準備　定價拾錢　三百部以上購入されし方へ

咢堂會本部
東京市外大森馬込村東九一四

咢堂會支部
全國立憲青年同志會
東京市麴町區内山下町一丁目一番地
電話銀座園三七九三番
振替口座東京六九〇六九番

大正十三年十一月二十二日第三種郵便物認可
昭和二年六月廿八日印刷納本
昭和二年七月七日發行（毎月一回七日發行）

婦人運動

第五卷第七號（定價二十五錢）